

兵庫県の リスクコミュニケーション について

兵庫県健康福祉部健康局
生活衛生課



兵庫県のリスクコミュニケーション

食の安全安心と食育に関する条例

食の安全安心推進計画・・・第4章施策展開
「県民、事業者、行政相互の情報、意見交換の推進」

(対話型)

食の安全安心フェア

* 県内各ブロックに分けて実施
100名～250名程度

食の安全安心出前講座

* 113件 4,659名
(平成19年度)

各講習会講師派遣

* 283件 13,613名
(平成19年度)

ホームページ・広報

(一方通行型)



情報提供と知識の啓発

- 食の安全安心出前講座
- 県広報、ホームページ
- 講習会
 - ・食品表示説明会（菓子製造・販売事業者）の開催
 - 「適正な食品表示の方法について」
 - 「消費（賞味）期限について」
 - 参加者315名 個別相談24件
 - ・企業倫理セミナーの開催
 - 「企業倫理規範と行動基準」
 - 「食品企業の社会的責任とフードシステムの現状・課題」
 - 参加者239名

食の安全安心フェア

- ・1会場100～250名程度。
- ・意見交換会、講習会、クロスロードなど、テーマにより様々な形を取り入れて実施。
- ・テーマはその時々^の食に関する時事、モニターの食に関する不安事案上位のものを選出。

■ 平成17年度 「食」を考える県民フォーラム

1会場(神戸)

■ 平成18年度 「食」を考える県民フォーラム

6会場(宝塚、加古川、龍野、豊岡、柏原、洲本)

■ 平成19年度 食の安全安心フェア

8会場

(阪神、東播磨(2会場)、北播磨、中・西播磨、但馬、丹波、淡路)

■ 平成20年度 食の安全安心フェア

9会場

(阪神(2会場)、東播磨(2会場)、北播磨、中・西播磨、但馬、丹波、淡路)



H20. 7. 31(木)

食の安全安心フェア(但馬地区)

- ・水産業の現状
- ・食品事業者の食の安全安心の取り組み
- ・食育



”中・西播磨地区”食の安全安心フェア

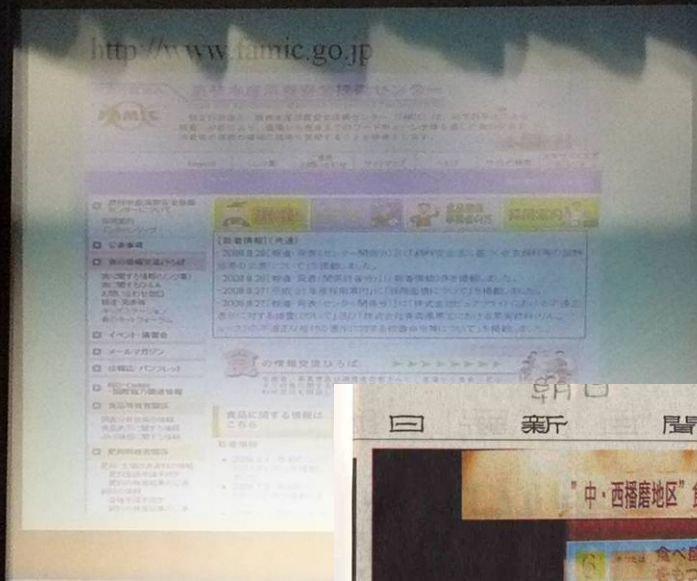
食の信頼をつなぐ ―食品表示―

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター
神戸センター 消費技術部 鎌崎 正二 先生

H20. 8. 29(金)

食の安全安心フェア (中・西播磨地区)

- ・クロスロード
- ・食品表示について





パネル展示

- ・食中毒
- ・兵庫県食の安全安心施策
- ・表示
- ・食品の選び方
- ・遺伝子組換え・輸入食品 等

食品衛生監視員がパネルについて説明





体験コーナーを設置

- ・手洗いチェッカー
- ・ATP検査
- ・放射温度計



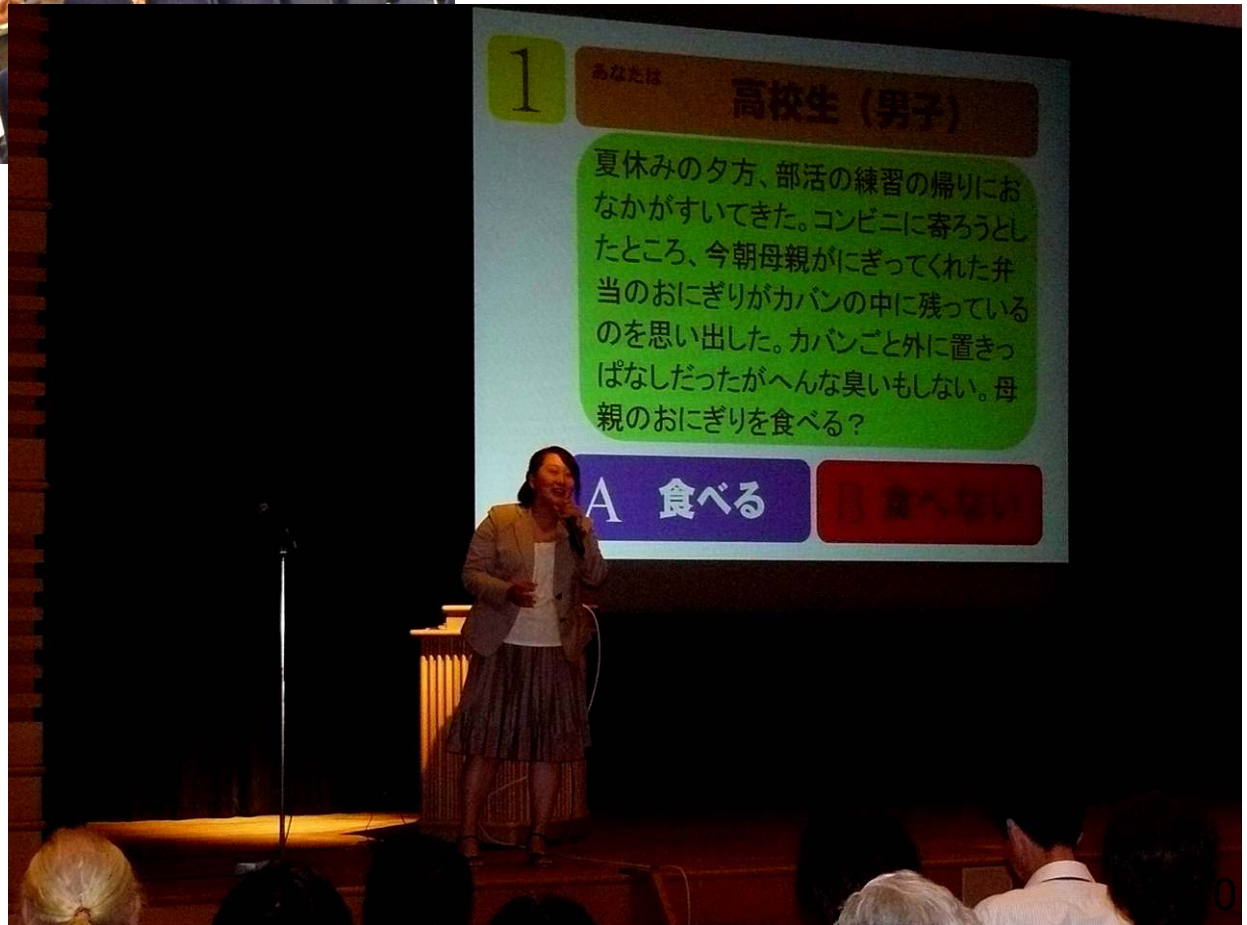


クロスロードの活用事例

- **食品衛生監視員研修会**（兵庫県、姫路市、西宮市、尼崎市対象）
 - ・平成20年度の研修会で実施
 - ・リスコミ手法の一つとしてクロスロード講習会を実施
- **食の安全安心フェア**
 - ・グループワークと全体版を実施
 - ・対象者：消費者、食品事業者、生産者等
- **食の安全安心出前講座**
 - ・グループワークを実施
 - ・対象者：消費者、給食調理員等



食の安全安心フェアで
クロスロード(全体版)を実施
1時間 対象約200人



1

あなたは 高校生 (男子)

夏休みの夕方、部活の練習の帰りにおなかがすいてきた。コンビニに寄ろうとしたところ、今朝母親がにぎってくれた弁当のおにぎりがカバンの中に残っているのを思い出した。カバンごと外に置けばなしだったがへんな臭いもしない。母親のおにぎりを食べる？


A 食べる

B 食べない



**講習会で講義＋クロスロード
(グループワーク)を実施**





クロスロードの効果

- 参加した、という実感がある。
 - －問題を自ら考え、意思表示をすることができる。
 - －全員が意見を述べることができる。
 - －議論ができる。
 - 様々な食に関する問題について、考えることができる。
- * 参加者の意識向上につながっているかどうかは今後の検証による。

クロスロードの課題(これからの展開)

■ クロスロード問題の設定について (課題)

- ・特に、消費者については、カードの内容は5～6行が限度。
- ・立場についても、専門的な立場にはあまり反応がない。「ジレンマ」を感じるできない)

(これからの展開)

- ・クロスロードを実施する際の目的を定め、問題をセレクトする。
目的①様々な立場に立って、ものを考えさせる。
目的②一立場としてのジレンマを多数で共有もしくは議論する。
目的③クロスロードでの食の安全安心に関する疑問点を、実施後にフォロー(講習など)

クロスロードの課題(これからの展開)

■ 進行役の力量について (課題)

- ・興味を続かせるためには進行が重要。(終わった後の充足感にもつながる。)
 - かならずしも、様々な立場(業種)がいるわけではないため、グループ分けが、特に「消費者のみ」となると、意見の偏りがでることが多く、盛り上がりにかけることがある。
 - 特に、全体版では会場のテンションを最後まで保つ必要がある。(だれてしまうことを防ぐため)

(これからの展開)

- ・経験値を上げる(プレゼンテーション能力の向上)
- ・進行役のトレーニング(ファシリテーターの育成)
 - リスクコミュニケーター育成講座